

学位論文内容の要旨

		要 旨
学位申請者	<p style="text-align: center;">岐部 智恵子</p> <p style="text-align: center;">【人間発達科学専攻 平成25年度生】</p>	<p>本論文では、未就学児を持つ父親の抑うつ傾向の子どもの社会情緒的問題傾向への影響性について、日本と英国の家族から得られた属性一致サンプルによる縦断データを用い発達精神病理学的観点から検討をおこなっている。</p> <p>近年、父親に関する研究が顕著な増加を示しているものの、子どもの発達におけるリスク要因としての“父親の抑うつ”については世界的にも未だ十分な検討がなされていない。特に日本においては、父親の育児関与の少なさが問題視され家庭関与促進の議論が進められているものの、その中にメンタルヘルス問題を抱える父親についての視点は欠如している。メンタルヘルス問題の中でも抑うつは高頻度に発生する精神疾患であり、臨床レベルに至る以前から連続体として理解していく必要がある。本テーマを扱う上で、労働時間の長さ、育児休業制度の整備など類似の社会背景を持ちながら、父親の家庭関与では差がある英国を比較対象国として選択したことは適切な選択であり、同国で大規模縦断プロジェクトとして進められている Millennium Cohort Study からデータを二次利用することで、日本の調査参加者と属性が一致するサンプルを作成して比較解析を実施した点は方法論的に高く評価することができる。</p> <p>縦断調査を含めた一連の分析結果から、日英ともに未就学児をもつ父親の抑うつは子どもの発達にネガティブな影響を持つこと、同時にその影響経路において両国間での相違も観測され、家族のおかれた社会・文化的文脈により子どもへの伝達や影響の表れ方が異なることを明らかにした。子育て期の父親のメンタルヘルスとその子どもの発達や夫婦関係・親子関係への影響性に関する家族臨床領域への学術的貢献とともに、日本における父親のメンタルヘルスへの留意の重要性について実証的データを示せた点での社会的貢献も大きなものといえる。</p>
論文題目	<p>父親の抑うつ傾向と未就学児の社会情緒的問題傾向 -日英比較による発達精神病理学的検討-</p>	
審査委員	(主査) 教授 菅原 ますみ	
	教授 大森 美香	
	准教授 上原 泉	
	教授 石口 彰	
	教授 榊原 洋一	